

名古屋市立大学医学部附属

西部医療センター

名古屋陽子線治療センター

〒462-8508
名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
TEL:052-991-8121

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30
(陽子線治療センターは完全予約制)



名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

〒464-8547
名古屋市千種区若水一丁目2番23号
TEL:052-721-7171

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30

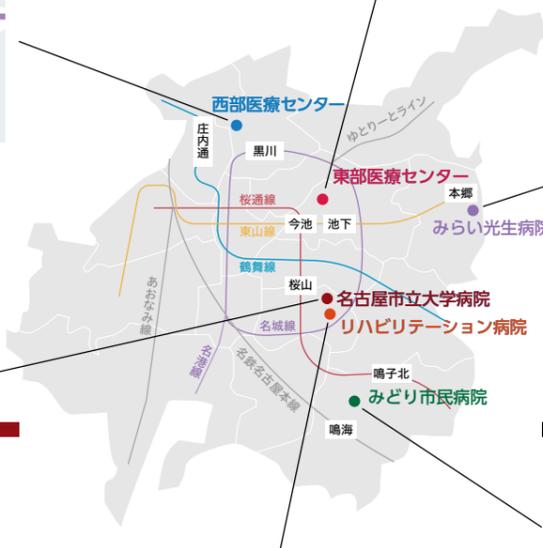


名古屋市立大学医学部附属

みらい光生病院

〒465-8650
名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地
TEL:052-704-2345

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～15:30



名古屋市立大学病院

〒467-8602
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL:052-851-5511

外来受付時間
月曜～金曜 8:30～11:00



名古屋市立大学医学部附属

リハビリテーション病院

〒467-8604
名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2
TEL:052-680-8123

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～15:30



名古屋市立大学医学部附属

みどり市民病院

〒458-0037
名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地
TEL:052-892-1331

外来受付時間
月曜～金曜 8:45～11:30



名古屋市立大学 医学部附属病院

大学病院ダイジェスト2025

名古屋市立大学病院

名古屋市立大学医学部附属
東部医療センター

名古屋市立大学医学部附属
西部医療センター
名古屋陽子線治療センター

名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院

名古屋市立大学医学部附属
みらい光生病院

名古屋市立大学医学部附属
リハビリテーション病院

地域の皆さまと共にも
これまで、これから



ご寄附のお願い

各病院では、診療研究、人材育成及び医療環境の充実を図ることを目的として寄附金を募集しております。皆さまのお力添えを賜れますよう心よりお願い申し上げます。詳しくは各病院のウェブサイトをご参照ください。



リハビリテーション病院が新たに 「名古屋市立大学医学部附属病院群」に加わりました

リハビリテーション病院



名古屋市立大学病院



みどり市民病院



東部医療センター



西部医療センター



みらい光生病院



救急災害医療センター



救急医療機能の強化、災害医療機能の強化及び救急・災害に関する医療人を育成するための機能の強化を主軸とした新棟、「救急災害医療センター」を建設しています。開棟は2026年を予定しています。

SDGsにも対応した取り組みを実施します

エントランスホールには地中熱を利用した空調システムを導入します。エアコン冷房運転時の室外機の放熱（暖房運転時は吸熱）を地中で行うことで、高効率で省電力な空調が可能です。CO₂の排出量を低減でき、ヒートアイランド効果の抑制につながる再生可能エネルギーシステムを採用しています。

救急災害医療センターは地下1階、地上8階建て延床面積27,600㎡を誇り、救急災害医療施設として日本最大級となる予定です

- ▶救急搬送10,000件／年に対応できる救命救急センターを設置
- ▶災害時に約300床の仮設病床スペースを確保
- ▶巨大地震時に建物の揺れを軽減し、診療機能を維持するための免震構造



名古屋市立大学理事長
郡 健二郎

地域医療と共に歩む名市大の附属病院群

2025年4月、名市大に6つの病院からなる附属病院群が誕生しました。4年前に開設した東部・西部医療センターと、2年前に開設したみどり市民病院・みらい光生病院、そして今春新たに開設したリハビリテーション病院が市立大学病院と連携して、地域から信頼される附属病院群を目指し努めてまいります。

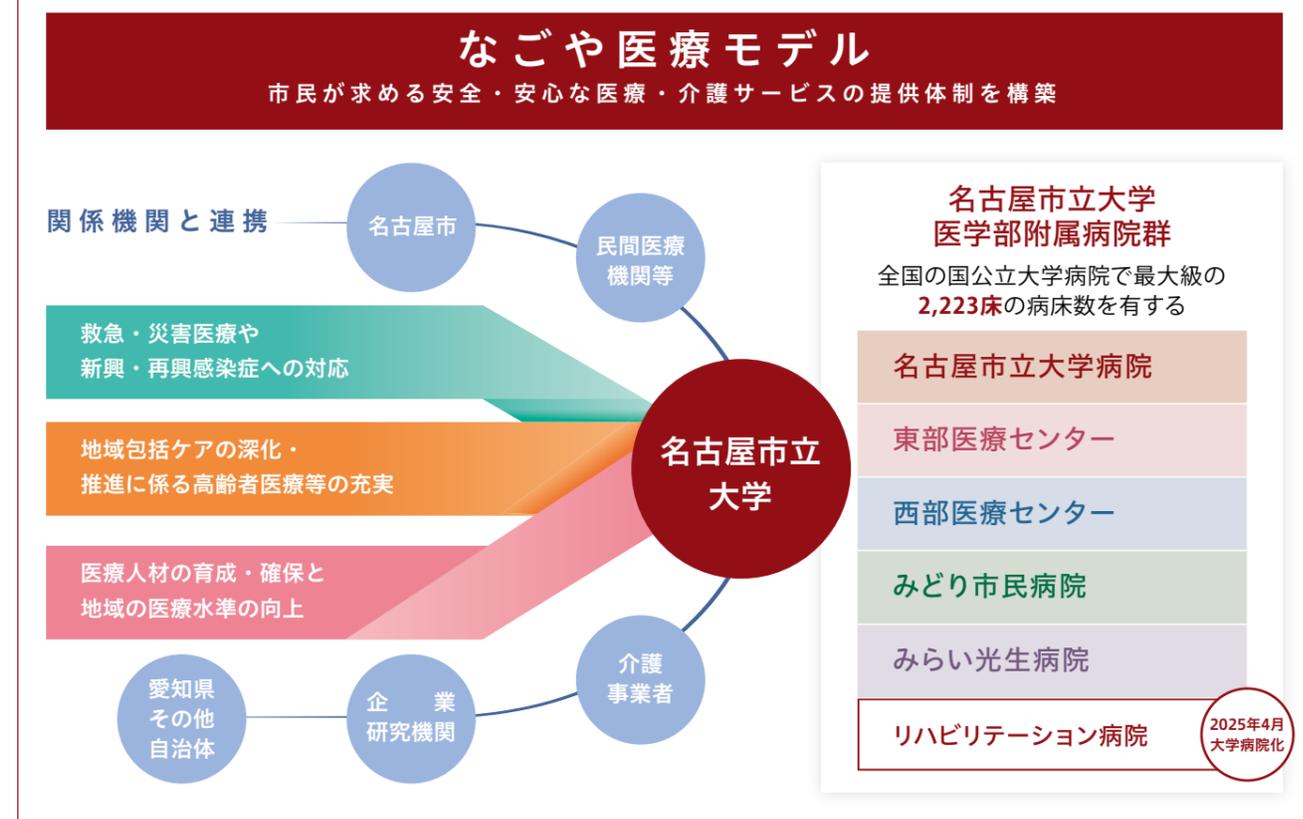
附属病院群の特徴は、高度急性期から慢性期までの多種多様な医療を連続して6附属病院が提供することです。超高齢社会において必須となるこの医療スタイルを「なごや医療モデル」と、私たちは呼んでいます。「なごや医療モデル」を地域医療機関や介護事業者、名古屋市など行政機関からのご指導とご協力を得ながら完遂させ、優れた医療人の育成と先端的研究を遂行し、全国初の医療モデルとして発信したいと考えております。

次に、6附属病院の特色をご紹介します。**市立大学病院**では、2026年開棟の「救急災害医療センター」は、わが国最大規模の施設で、大震災時にも手術・透析・出産が可能で、約300床の仮設病床を確保しています。**東部医療センター**では、従来までの救急、感染症、心臓・脳血管センターに加えて、消化器外科、産婦人科などに新たに教授を迎え、がん治療にも力を入れています。**西部医療センター**では、陽子線医療、周産期医療、脊椎外科に加えて、2023年には女性不妊症のみならず、全国で珍しい男性不妊症を治療する生殖医療センターを創設しました。

みどり市民病院では、緑区民の積年の願いであった地元で完結する二次救急を担っています。限られた規模と設備の中で、地域医療機関と連携して高度医療を遂行します。**みらい光生病院**では、回復期リハビリを設け、認知症、フレイル、脱メタボ、アンチエイジングなど7つの症候群に対して、関連する診療科が協調してワンストップで診療しています。**リハビリテーション病院**では、大学病院としての高度なリハビリテーション医療を提供するとともに、「医療福祉センター」を設置し、医療と福祉の連携拠点となることを目指しています。

名市大の附属病院群は、これからも地域の皆さまと共に歩んでまいります。温かいご理解ご支援を引き続きお願い申し上げます。

名古屋市と連携し、「なごや医療モデル」における取り組みを推進します



現在、名古屋市では、高齢化の進展状況やその他名古屋市が抱える諸課題を解決するため、名古屋市立大学の機能を最大限活用しながら、民間医療機関をはじめとする関係機関と共に市民が求める安全・安心な医療・介護を提供する「なごや医療モデル」を構築しています。名古屋市立大学は、2025年4月に新たにリハビリテーション病院を迎え、新たな附属病院群として有する2,223床の病床数を活かして、高度急性期から慢性期まで幅広い医療を提供するとともに、地域の医療ニーズに的確に対応した質の高い先進的な医療を提供します。

また、健康長寿に資するより効果的な治療方法などの研究成果の還元や地域包括ケアの推進、優れた医療人の育成等を通じて地域の医療・介護の充実を図ることで、名古屋市と連携しながら、「なごや医療モデル」を推進してまいります。

附属病院群の機能

地域包括ケアの深化・推進

私たちは、高度急性期から慢性期までの病床を有する附属病院群として、地域の医療機関の皆さまと共に、地域に貢献する医療を提供します。



みらい光生病院
回復期リハビリ
慢性期医療



2025年4月 開院

連携

リハビリテーション病院
回復期リハビリ
医療/福祉連携



みどり市民病院
二次救急・急性期医療
地域包括ケア

名古屋市立大学 医学部附属病院群



名古屋市立大学病院
高度先進医療 救急・災害医療
がん医療・高難度手術
小児周産期医療

高度急性期



東部医療センター
救急医療
感染症医療
がん医療・高難度手術



西部医療センター
小児周産期・生殖医療
がん医療・高難度手術・陽子線治療
脊椎疾患医療

私たちが地域に果たす役割

医療人育成

大学・育成機関

- 学生実習
- 病院見学
- 研修医・専攻医養成
- 多職種養成

医療・介護連携

連携病院・かかりつけ医

- 紹介・逆紹介
- 人材交流
- 研究成果の還元
- 研修機会・勉強会
- 優れた医療人の育成・供給

訪問診療・看護・リハビリ・介護事業者

- 研究成果の還元
- 研修機会・勉強会
- 優れた医療人の育成・供給

研究・産学官連携

研究機関・企業

- 基礎・臨床研究（橋渡し研究）
- 共同研究・寄附講座
- 新規医療技術・機器開発
- 研究成果の社会実装

地域貢献・政策協力

地域

- DMAT等災害時の医療派遣
- 国際大会など大規模イベント時の医療派遣
- 市民向け講座・イベント
- 高齢者医療・介護予防の充実

行政・医師会等

- 医療政策に関する提言（有識者）
- その他医療政策に関する支援



名古屋市立大学病院



名古屋市立大学病院
ウェブサイト

理念

地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します

基本方針

- ・名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します
- ・高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます
- ・救急災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します
- ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します

所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

許可病床数 800床

診療科目 内科/消化器内科/肝臓内科/膵臓内科/呼吸器・アレルギー疾患内科/リウマチ科/循環器内科/内分泌・糖尿病内科/血液・腫瘍内科/脳神経内科/腎臓内科/外科/消化器外科/呼吸器外科/心臓血管外科/小児外科/乳腺外科/形成外科/整形外科/産婦人科/小児科/眼科/耳鼻いんこう科/皮膚科/泌尿器科/小児泌尿器科/精神科/放射線科/麻酔科/脳神経外科/歯科口腔外科/救急科/リハビリテーション科/病理診断科/臨床検査科

基本情報 特定機能病院/地域がん診療連携拠点病院/肝疾患診療連携拠点病院/救命救急センター/地域中核災害拠点病院/総合周産期母子医療センター/日本医療機能評価機構認定病院(「機能種別 一般病院3」3rdG:Ver.2.0)/がんゲノム医療連携病院



名古屋市立大学病院は、1931年に名古屋市民病院として発足以来、地域の中核医療機関として高度かつ安全な医療を提供してきました。2004年に病棟・中央診療棟、2007年に外来診療棟、2012年には喜谷記念がん治療センターを開設。施設の拡充を図るとともに、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターの指定を受け、病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)も取得。大学病院としての機能の強化を進める一方、特定機能病院・高度急性期病院として先進的な医療を推進するほか、市民のための病院として、救急医療と災害医療にも注力しています。2025年4月1日現在、当院は800床の病床を有し、35の診療科をはじめ、中央部門、診療技術部門、薬剤部門、看護部門、管理部門からなる充実の医療体制のもと、笑顔と感動にあふれる病院を目指し医療を提供しています。

2025年4月1日時点

※現在、当院では、病院敷地内にて「救急災害医療センター」の建設工事を行っています。工事期間中、安心・安全を第一に努めてまいります。皆さまには大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



ハイブリット手術室

カテーテル室の機能を併せ持った手術室で高度な血管内治療などに対応するため、手術中のX線撮影が可能な装置を備えています。



DMAT・DPAT

災害派遣医療チーム(DMAT)と災害派遣精神医療チーム(DPAT)。大地震や列車事故などの大規模災害時に、被災地に駆けつけ活動します。



抗がん剤自動調製装置

医療者への曝露防止、薬剤師の調製業務の効率化につながり患者さんとの面談や副作用対策の充実に重点をおいた仕事を可能としています。

未来も輝き続ける名古屋市立大学病院

名古屋市立大学病院は、東部医療センター・西部医療センター・みどり市民病院・みらい光生病院・リハビリテーション病院と密に連携し、市民の皆さまの健康に資する高度先進かつ先端医療を提供するために不断の努力を継続してまいります。特に2026年に開棟予定の救急災害医療センターでは、医育機関として“どんな疾患にも対応可能な次世代を担う医療人の育成”を目標に掲げ、臨床現場として可能な限り多くの救急に対応しうるセンター運用を目指します。市民の方々の健康・福祉を支え、また将来の医療を担う医療人の医育機関、臨床研究機関として名古屋市にありつづけるよう一層精進してまいります。引き続きご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。



名古屋市立大学病院
病院長 松川 則之

■ Topics

がん医療

当院はがん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、小児がん連携病院の指定を受け、がんゲノムパネル検査や遺伝カウンセリング、小児がん、原発不明がんや肉腫に対して質の高い医療が受けられる体制が整っています。

患者さんの身体的負担減少のため手術支援ロボットシステムを用いて低侵襲手術を積極的に実施しており、放射線療法においては県内でも数少ない小線源治療にも対応しています。また血液腫瘍に対するキメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法や手術不能な神経内分泌腫瘍に対するルタテラ治療など、様々ながん種と病気に応じた集学的治療を提供しています。



体の中から腫瘍に対して効果的に放射線を照射することができる小線源治療機器「MultiSource」

医療人の育成

医師の初期臨床研修プログラムでは、東部・西部医療センターをはじめ附属病院群として連携した研修を行っています。初期研修は3年連続フルマッチ(定員充足率100%)を達成し、若い医療人が集う場になっています。看護師、薬剤師や医療技術職員については、それぞれの専門職種としてのキャリアパスを意識し、附属病院群、学部及び関連機関と連携しながら育成を行っています。2024年度には大学院医学研究科で診療看護師コースが開講され、診療看護師の養成にも力を入れています。次世代の医療・医学を支える医療人育成をさらに充実してまいります。



E-ステーション

E-ステーションは、名古屋市消防局と連携しながら、大学病院ならではの高度な専門性(Expert)、蘇生をはじめとする救急災害医療に関する教育(Education)、ドクターカーによる緊急対応(Emergency)を推進し、救急災害医療のさらなる発展(Evolution)を目指す拠点です。2025年度以降はドクターカーの24時間体制での本格運用も目指し、病院一丸となって救急災害医療に貢献してまいります。

ドクターカー運用に関する動画をご覧ください▶





名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター



東部医療センター
ウェブサイト

理念

安全かつ高度な医療を提供し、
市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・ 心臓血管・脳血管疾患・がんなどに対する高度・専門医療の充実に努めます
- ・ 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
- ・ 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
- ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・ 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

所在地 名古屋市千種区若水一丁目2番23号

許可病床数 498床（一般病床488床・感染症病床10床）

診療科目 内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／腎臓内科／脳神経内科／血液・腫瘍内科／
内分泌・糖尿病内科／疼痛緩和内科／感染症内科／外科／呼吸器外科／消化器外科／心臓血管外科／
脳神経外科／乳腺・内分泌外科／小児外科／整形外科／形成外科／精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／
小児泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科／放射線診断科／放射線治療科／
病理診断科／救急科／麻酔科／歯科口腔外科

基本情報 地域医療支援病院／DPC特定病院群指定／救命救急センター／地域中核災害拠点病院／
日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別 一般病院2」3rdG:Ver.3.0）／第二種感染症指定医療機関



1890年、伝染症患者のための隔離病舎を愛知県から引き継ぎ、1901年に避病院として開設。1957年に現在地に移転改築し、名古屋市立東市民病院に改称しました。以来、救急診療棟、心臓血管センター・脳血管センターを次々に開設し、地域の中核病院として救急医療をはじめ、心臓血管・脳血管疾患に対する高度・専門医療の分野で地域医療に貢献。2011年5月名古屋市立東部医療センターに改称後、2013年には地域医療支援病院に承認されました。2015年には救急・外来棟を、2020年には入院・診療棟を開棟。2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属東部医療センターと改称。365日24時間患者さんを受け入れる「断らない救急」の実現と高度医療のさらなる充実・強化を目指しています。

2025年4月1日時点



ロボットスーツHAL®を使用した
運動療法の様子



令和6年能登半島地震におけるDMATの派遣



眼科・レーザー治療センター

躍進し続ける東部医療センター

大学病院化から4年、市民の皆さまに「いのちを守る高度・専門医療」を提供する体制整備を進めてきました。救急車の応需は年間8,000台を越え、救命救急センターとして、心臓血管や脳血管の重症疾患の患者や、小児救急患者を受け入れ、地域救急医療に貢献しています。当院の使命である感染症医療では、新型コロナウイルス感染症パンデミックのなかで名古屋市民の生命を守る中心的役割を果たしました。新興感染症対策として感染症学分野が設置され、感染症専門医を養成していきます。また、合併症の多い高齢者がん診療の中心的医療機関となるべく、がん専門医・薬剤師を教授として招聘し、がん診療体制の充実・強化を実施しました。消化器外科、産婦人科、泌尿器科が、手術用ロボットである「da Vinci」を用いて積極的にがん手術を行っています。さらに、無菌室を整備し、白血病などのがん化学療法・放射線療法を含めた総合的ながん治療を進めていきます。引き続きのご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



東部医療センター
病院長 林 祐太郎

■ Topics

救急医療

2次救急医療機関では対応できない重篤な救急患者に対し、24時間体制で高度な医療を総合的に提供する救命救急センターとして、専用病床を20床有しています。従来からの心臓・大動脈疾患、脳卒中、感染症の救急診療に加え、重症外傷、小児救急の受け入れ体制を確立したことで、年間8,700件の救急応需に向けた取り組みを今後より一層強化します。



ERにおける救急搬送受け入れ

感染症医療

第二種感染症指定医療機関として市内最大規模の感染症病床を有しています。新型コロナウイルス感染症対応においては、2020年2月に市内で初の患者受け入れを行い、2021年4月には22床の専用病床（高次ウイルス感染症センター）を整備し、延べ2万人を超える市内最多の入院患者対応を行ってきました。2024年度には感染症学分野の主任教授が当院に着任し、名古屋市による寄附講座（臨床感染症学）も設置され、次なる新興感染症に備えた感染症専門医の養成や調査研究等にも取り組んでいます。



院内ICTラウンドの様子

がん医療

2022年4月に各部門を統括する「先進がん治療センター」を立ち上げ、がんを専門とする教授が次々と着任したことで、大幅に機能強化が図られました。当院は特に高齢・多臓器合併症を有するがん患者さんを積極的に受け入れており、手術、薬物療法、放射線治療による集学的治療を進めています。婦人科がんのロボット支援手術などの新たな取り組みも始まり、「愛知県がん診療拠点病院」の指定を目指して描いたロードマップを着実に歩んでいます。



産婦人科 子宮体がん腹腔鏡下手術



名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 名古屋陽子線治療センター



西部医療センター
ウェブサイト



名古屋陽子線
治療センター
ウェブサイト

理念

地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
- ・がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
- ・地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

所在地 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

許可病床数 500床

診療科目 内科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／腎臓・透析内科／脳神経内科／血液・腫瘍内科／内分泌・糖尿病内科／外科／呼吸器外科／消化器外科／脳神経外科／乳腺・内分泌外科／小児外科／整形外科／形成外科／精神科／児童精神科／リウマチ科／小児科／小児アレルギー科／小児科（新生児）／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／リハビリテーション科／放射線診断科／放射線治療科／病理診断科／麻酔科／歯科口腔外科

基本情報 地域医療支援病院／地域がん診療連携拠点病院／地域災害拠点病院／地域周産期母子医療センター／日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別 一般病院2」3rdG:Ver.2.0）／がんゲノム医療連携病院



西部医療センターは、地域の中核病院として親しまれてきた城北病院と城西病院を前身とします。2011年にクオリティライフ21城北内の現地に新築移転し、両院を統合した名古屋市立西部医療センターとして運営を開始。以来、小児・周産期医療、がん医療、脊椎医療、救急医療の拡充に取り組んでまいりました。2013年2月には、名古屋陽子線治療センターを開設し、東海3県で初めてとなる陽子線がん治療をスタート。また同年9月には地域医療支援病院の承認、2019年4月には地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターに改称。地域に根差した大学病院として今後ますます存在感を発揮しながら、地域に住む皆さまに安全で質の高い医療を提供してまいります。

2025年4月1日時点



NICU・GCU

最先端の医療機器とチーム医療で小さな命を守ります。



生殖医療センター

女性不妊症、男性不妊症、不育症に加え本格的に生殖医療に取り組むため、「生殖医療センター」を2023年に開設しました。



名古屋陽子線治療センター

通院がしやすく様々な治療法と組み合わせた陽子線治療が可能です。

さらに信頼され、愛される大学病院を目指して

西部医療センターは小児・周産期医療、生殖医療、がん医療、陽子線治療、脊椎疾患医療を中心に、高度かつ安心・安全な医療を提供するとともに、他の5病院と一体となり優れた医療人の育成に努めています。2023年6月には無痛分娩を一部導入し、同年9月には従来行ってきた男性不妊症、不育症の治療に加え本格的に生殖医療に取り組むため「生殖医療センター」を開設しました。陽子線治療センターでは2023年度の治療件数が881件となり、全国でも特に多くの実績を重ねています。2024年4月には「乾癬治療ケアセンター」と「形成外科」を新設し、同年6月には「エキスパートパネル実施可能がんゲノム医療連携病院」に指定されました。西部医療センターは、『地域に根差した大学病院』を理念として地域の医療機関の皆さまとの連携をより一層深め、市民の皆さまにさらに信頼され、愛される病院を目指して、全力で取り組んでまいります。どうぞご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



西部医療センター
病院長 大原 弘隆

■ Topics

小児・周産期医療

地域周産期母子医療センターとして、NICU（新生児集中治療室）やGCU（新生児回復室）を備え、安全なお産を一丸となってサポートしています。「BFH：赤ちゃんにやさしい病院」として母乳育児支援にも力を入れているほか、小児医療センターでは、0歳から15歳までのお子さんに対する高度専門医療と生活指導を提供しています。



安心して出産・育児ができるよう、入院中から退院後まで継続した支援を行っています。

がん医療

地域がん診療連携拠点病院として、多職種によるチーム医療を推進し、手術や放射線治療・薬物療法による高度ながん医療を提供します。2013年2月に開設した陽子線治療センターでは、苦しまないがん治療の実現を目指し、生活の質を維持しながら行えるがん治療を提供しています。また、NPO法人やハローワークと連携したピアサポート・就労相談を行っています。



陽子線治療センターのガントリー照射室ガントリーを360°回転させることで、どの方向からでも陽子線を照射できます。

脊椎医療

超高齢社会となり、脊椎疾患を抱える患者の数は増加傾向にあります。脊椎センターでは、投薬やリハビリ等による保存的治療から顕微鏡による低侵襲手術、側弯や後弯の矯正に注力しています。また、長期化しがちな椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対し、早期の社会復帰が可能な医療を提供しています。難治性の歩行障害については、整形外科・脳神経内科・脳神経外科により、多職種で評価し治療しています。



O-arm™により手術中に360°方向から撮像を行うことで、精度の高い手術を行うことができます。



名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院



みどり市民病院
ウェブサイト

理念

地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します

基本方針

- ・急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します
- ・安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます
- ・地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します
- ・「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人を育成します
- ・先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します

所在地 名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地

許可病床数 205床

診療科目 内科／消化器内科／呼吸器・アレルギー疾患内科／リウマチ科／循環器内科／内分泌・糖尿病内科／血液・腫瘍内科／脳神経内科／腎臓内科／外科／消化器外科／呼吸器外科／心臓血管外科／小児外科／乳腺外科／形成外科／整形外科／産婦人科／小児科／眼科／耳鼻いんこう科／皮膚科／泌尿器科／精神科／放射線科／麻酔科／脳神経外科／救急科／リハビリテーション科／病理診断科／臨床検査科



1945年に旧愛知郡鳴海町国民健康保険組合診療所として開設し、名古屋市南部の地域密着型の中核的病院として役割を果たしてきました。1963年に名古屋市が愛知郡鳴海町を編入合併したことに伴い、名古屋市立緑市民病院へ改称。人口急増地区であることから、南館増築と本館の全面改修を経て、患者増に対応するための病床整備を実施。さらに1996年からの2か年計画で北館増設工事を行い、診療体制の整備充実を図りました。その後2012年に指定管理者制度を導入し11年間の指定管理期間を経て、2023年4月に名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院として運営を開始。前身の緑市民病院の医療を引き継ぎつつ、地域密着型の大学病院として、安全かつ高度な地域医療のニーズに対応した医療の提供に努めてまいります。救急の初期対応をはじめ多様な疾患に対する治療を行うとともに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援します。 2025年4月1日時点



緑を取り入れた色鮮やかなMRI検査室



整形外科チーム
「治し支える医療」をご提供いたします。



見晴らしの良い環境での
リハビリテーション

MIDORI REBORN 1.0から2.0へ -地域の唯一無二を目指して-

大学病院化から3年目となるみどり市民病院は、次のステージを目指し新たな成長に臨みます。前身の緑市民病院時代の医療を深化させ急性期から回復期までの「治し支える医療」をワンストップで提供する大学病院として、少しずつではありますが地域の皆様にお応えできるようになってまいりました。一方で地域特性も踏まえ、さらに増大する高齢者の急性期・救急医療への一層の貢献が今後の課題と考えるところです。高齢患者における多疾患併存状態や入院加療に伴う日常生活能力の低下に対し、より厚い入院支援や低侵襲医療など包括かつ先進的な治療システムの構築に取り組み、積極的に実施してまいります。

また、関連地域医療機関のご理解を頂く中での新病院再整備では、行政とも協力しながら災害時にも自律的に地域医療を持続支援できる機能規模を計画・実現したいと考えております。

より質の高い「治し支える医療」の実装により、地域包括ケアシステムの持続的発展と幸せな健康未来の創出に引き続き寄与してまいります。



みどり市民病院
病院長 浅野 実樹

■ Topics

泌尿器科に ハイブリッドツリウム YAGレーザーを導入

当院の泌尿器科を受診される患者さんで、多い症状や病気は頻尿や尿管結石です。そこで、2024年5月、手術支援ロボット「ハイブリッドツリウム YAGレーザー RevoliX HTL™」を導入しました。これにより、1台のロボットで「経尿道的前立腺レーザー蒸散術」と「経尿道的尿管結石砕石術」が可能となり、患者さんに優しく、かつ、確実な治療効果を発揮しております。今後も安全安心で先進的な医療を身近にご提供してまいります。



専門医による高精度の 診断と治療

2024年12月より、高性能2管球CTを導入し、より高精細な心臓CTのほか、デュアルエネルギーCTと呼ばれる特殊な画像を取得することが可能になりました。これを十分に活かすために豊富な知識と経験に基づく深い理解・解釈を持った診断専門医が、診療放射線技師とともに検査目的に応じた最適な検査を実施し、診断を行っています。精度の高い検査を提供することで、疾患の早期発見・早期治療を行い、地域の皆さま、患者さんの健康を維持できるよう努めてまいります。



2次救急の受け入れ対応

緑区を中心とした地域の皆さまに安心していただけるような救急医療の提供に取り組んでいます。名古屋市の2次救急医療機関として、傷病者の状態に応じた医療を提供し、「かかりつけ医」や各急病センターからのご紹介患者さんの受け入れにも対応しております。また、平日夜間・土曜午後には小児救急外来も行っております。

2024年6月には、救急外来をリニューアルし、初療室増床と救急動線の改善を行ったことで、ますますスムーズな救急医療の提供が可能となりました。





名古屋市立大学医学部附属 みらい光生病院



みらい光生病院
ウェブサイト

理念

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します

基本方針

- ・横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します
- ・自立・自活や生活の質 (QOL) の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します
- ・地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します
- ・高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します
- ・健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます

所在地 名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

許可病床数 140床

診療科目 内科/脳神経内科/消化器内科/呼吸器内科/循環器内科/内分泌・糖尿病内科/血液内科/
腎臓内科/整形外科/耳鼻いんこう科/眼科/皮膚科/泌尿器科/婦人科/放射線科/
精神科/リハビリテーション科/歯科口腔外科/病理診断科



1951年、医療法に基づく病院及び生活保護法に基づく医療保護施設として開設。1982年に現在地に移転改築し、厚生院附属病院と改称しました。2000年4月には、介護保険法の施行に伴い、病院の一部を指定介護療養型医療施設に転換しました。2023年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院と改称するとともに、一部の病棟を回復期リハビリテーション病棟に転棟。認知症やフレイルへの対応のほか、先駆的な技術を駆使しながら、患者さんのニーズに合わせたリハビリテーションを実施し、入院時から在宅生活を視野に入れた治療の提供と退院支援等、質の高い医療を提供してまいります。また、大学病院化を機に、専門外来を新たに開始し、様々な疾患に対して、関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を設けております。

2025年4月1日時点



3.0T MRIを新規導入
※共同利用検査をご利用いただけます。



Brain Machine Interface (BMI) を愛知県内初導入
※上肢機能を改善することを目的に使用する治療機器。



ヘルスケアアールで装飾されたエントランス
※名東区の木であり、本院敷地内にも植えられているケヤキをモチーフとしています。花言葉は「幸運・健康・長寿」。

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を

2023年4月に新病院として開院し、2年が経ちました。当院が健康寿命の延伸のために提供している医療の主な特徴を改めてご紹介させていただきます。関連する診療科が連携して横断的に診療を行うセンター体制を設け、各センターが連携してワンストップで病態に応じた診断・治療を進めています。物忘れ・認知症に対する診断治療には、脳神経内科を中心に多職種が連携し、精力的に取り組んでいます。先進リハビリセンターでは、ロボットリハビリ・ニューロリハビリ・摂食嚥下機能訓練・心臓リハビリなど先駆的な機器を用いて回復期医療を提供しています。さらに、各種レーザー機器を取り揃えたアンチエイジングケアにも取り組んでいます。また、術後や急性期治療後の患者さんを受け入れて回復期リハビリを行い、在宅への復帰を目指します。元気に長生きしていただくための医療を提供できますように職員一同精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



みらい光生病院
病院長 妹尾 恭司

Topics

センター機能

関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を設けております。

脳神経医療センター

脳、脊髄、神経及び筋肉などに関する様々な症状に対して、原因疾患を特定します。特に、認知症については、疾患別の進行速度や症状に応じて治療を行います。

先進リハビリセンター

活動の制限をきたしている脳卒中・脳外傷後遺症、骨・関節疾患、神経・筋疾患、脊髄損傷、サルコペニアなどに対して、最先端のリハビリテーション治療を行います。

内臓機能回復センター

心不全、呼吸不全、誤嚥性肺炎、逆流性食道炎、胃腸・肝障害、貧血、睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病、夜間頻尿や尿もれ・尿失禁などに対して、精査・治療やリハビリテーションなどを行います。

運動機能回復センター

フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの評価及び予防、運動器疾患の治療などを行います。

感覚器機能ケアセンター

感覚器に関連する(聴覚・視覚・皮膚・音声・平衡・嚥下・味覚・口腔など)機能障害や低下に対して、診断及び治療・リハビリテーションを行います。

やせと肥満の代謝機能回復センター

糖尿病、脂質異常、高血圧だけでなく、やせ、サルコペニア、肥満症、かくれ肥満症、サルコペニア肥満症などに対して、寛解を目指す治療を行います。

アンチエイジング・レーザーケアセンター

若々しく健康的・活動的に人生を送れるよう、皮膚・眼・耳・鼻・口腔内のケアを行います。また、保険治療のほかに、最先端のレーザー機器を用いた自費治療も取り入れ、幅広く治療にあたります。



名古屋市立大学医学部附属

リハビリテーション病院



リハビリテーション病院
ウェブサイト

理念 高度なリハビリテーション医療を提供し、
地域に信頼される病院をめざします

- 基本方針
- ・安心安全で丁寧な医療を行います
 - ・社会に広く役立つ研究を行います
 - ・思いやりのある医療人を育てます
 - ・自分らしく生きることを支えます

所在地 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

許可病床数 80床

診療科目 リハビリテーション科／整形外科／内科／脳神経内科／循環器内科／呼吸器内科／
消化器内科／放射線科／精神科／脳神経外科／眼科／耳鼻いんこう科／歯科



当院は名古屋市瑞穂区の閑静な住宅街の中に位置し、2025年4月より名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院として運営を開始しました。前身の病院は、1989年に障害のある方に対し相談から医療、訓練を経て社会復帰に至るまでの総合的なリハビリテーションを提供することを目的として開設された名古屋市総合リハビリテーションセンターの附属病院としてリハビリテーションを中心とした医療を提供してきました。新たな診療体制においては、前身の病院の医療を継続しながら、大学病院としての知見を活かした高度なリハビリテーション医療を中心に提供してまいります。また、大学病院化したことを契機として、先駆的な臨床研究を推進し、倫理観・使命感の高い医療人の育成に努めるとともに、これまで以上に地域の医療機関や介護事業者の皆さまとの連携を深め、安心・安全な医療を行ってまいります。

2025年4月1日時点



MELTz®手指運動リハビリテーションシステム
手指機能に特化した先進機器で、特に指先の繊細な動作の回復を支援します。



Armeo®Spring pro with ManovoSpring
国内初となる上肢リハビリテーションロボットを採用。関節の動きをサポートしながら、繰り返しの運動を通じて上肢機能の回復を目指します。



医療DXの推進
スマートベッドシステムなどデジタル技術の導入により業務効率化を図り、働き方改革の実現を目指します。

地域に信頼され、 ホスピタリティあふれる病院を目指して

名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院は、2025年4月1日、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院より名古屋市立大学医学部の附属病院として新しく生まれ変わります。先進的なリハビリテーションによる機能回復にとどまらず、福祉とも連携し、患者さんの心に寄り添い、お一人おひとりが“自分らしく生きる”ことをサポートいたします。また、リハビリテーションに関わる臨床研究を推進し、得られた知見を市民公開講座などで広く発信し、市民の健康増進に役立ちたいと考えています。ホスピタリティあふれる病院として地域の皆さまに信頼していただけるよう、スタッフ一丸となり日々精進してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



リハビリテーション病院
病院長 山下 純世

■ Topics

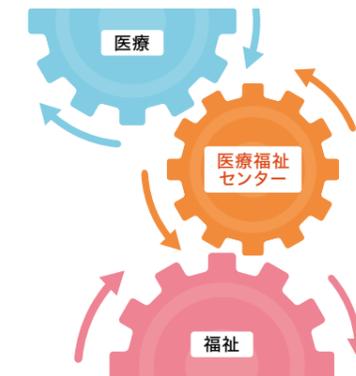
高度なリハビリテーション医療

大学病院として最新の知見に基づき、回復が難しいとされる上肢機能、手指機能の回復のための先進機器を導入するなど、機能障害に応じた質の高いリハビリテーション医療を提供してまいります。また、多職種連携によるチーム医療に取り組み、一人一人の状態に合わせ、心理面にも配慮しながら在宅復帰・社会復帰を支援できるよう努めてまいります。



医療と福祉の連携による 人材育成と臨床研究の推進

地域における医療と福祉の連携拠点となる医療福祉センターを院内に設置し、患者さんが自分らしく生きるための具体的な方策を提案してまいります。さらに、本学人文社会学部と連携した社会福祉士の育成や、医療福祉に関する臨床研究の支援、社会に向けた発信に努めてまいります。



地域に信頼される病院を 目指して

高次脳機能障害を含む障害者手帳、医療証などをお持ちの患者さんの受け入れなど、公的病院としての役割を果たしてまいります。また、地域の医療機関や介護事業者との協力はもちろん、住民の皆さまのニーズに応えるために病院サポーター制度を開始するなど、より良い地域医療の構築を目指してまいります。



附属病院群とつながる

●地域の医療機関の皆さまへ 医療連携のご案内

附属病院群では、紹介・逆紹介を積極的に行っています。また、地域医療機関との連携をより一層推進するため、登録医療機関制度を設けています。詳細は各病院の地域医療連携窓口にお問合せください。

各病院の地域医療連携窓口

-  **名古屋市立大学病院**
TEL : 052-858-7131 FAX : 052-858-7130
-  **東部医療センター**
TEL : 052-723-7359 FAX : 052-723-7356
-  **西部医療センター**
TEL : 052-991-8145 FAX : 052-856-0049
-  **みどり市民病院**
TEL : 052-892-1334 FAX : 052-892-1315
-  **みらい光生病院**
TEL : 052-704-9555 FAX : 052-704-2790
-  **リハビリテーション病院**
TEL : 052-680-9960 FAX : 052-680-9970



●学校関係の皆さまへ 病院見学や実習の受け入れのご案内

附属病院群では、病院見学や実習の受け入れを積極的に行っています。見学や実習、学生の1日体験などご希望の方は、各病院の受け入れ窓口にお問合せください。



医学部附属病院群 病院見学・実習のご案内は
名古屋市立大学ウェブサイトからご覧ください▶



●企業や関係機関の皆さまへ 寄附講座・共同研究等のご案内

大学病院として、研究活動や研究成果の還元・発信を積極的に行う医学部附属病院群。新規医療技術・機器・医薬品等の開発を目指した寄附講座や共同研究等を行うパートナーを募集しております。



- 寄附講座に関するお問い合わせ
名古屋市立大学 教育研究部研究推進課
TEL : 052-853-8008 FAX : 052-841-0261
- 産学官連携（技術相談・受託研究・共同研究・学術指導等）に関するお問い合わせ
名古屋市立大学 産学官共創イノベーションセンター
TEL : 052-853-8041 FAX : 052-841-0261

その他の情報は
名古屋市立大学ウェブサイト
からご覧ください▶



●地域の皆さまへ 公開講座のご案内

附属病院群では、高度先進医療や研究活動から得られた知見やノウハウを公開講座を通して積極的に還元しています。市民の方や医療・介護事業者の方向けなど多彩な講座を設けています。



医学部附属病院群 イベント・公開講座情報は
名古屋市立大学ウェブサイトからご覧ください▶



附属病院群の

取り組みを知る

附属病院群は、多彩な個性を持つ病院で構成されています。医療機能の特長だけでなく、教育や研究に関する独自の取り組みや地域とのコラボレーションも。

- ◎医療機能 ◎教育 ◎研究成果 ◎地域貢献 ◎地域医療連携 ◎時の人 ◎名市大病院
- ◎東部医療センター ◎西部医療センター ◎みどり市民病院 ◎みらい光生病院 ◎リハ病院



◎名市大病院 ◎ホスピタルピアノ
◎ミニコンサート



◎名市大病院 ◎ヘルスケアアートパフォーマンス
◎名市大 芸術工學部の学生も参加!



◎東部医療センター
◎新型インフルエンザ合同実地訓練



◎東部医療センター
◎「名古屋おもてなし武将隊」病院訪問



◎西部医療センター ◎災害対応訓練



◎西部医療センター ◎東部医療センター
◎いいお産の日 ◎ペビーマッサージ



◎みどり市民病院 ◎緑区民まつり



◎みどり市民病院 ◎クリスマスコンサート



◎みらい光生病院 ◎病院開放イベント
◎のぼさう健康寿命



◎みらい光生病院 ◎名東図書館
◎地域連携講座



◎リハ病院 ◎ロゴマーク決定
◎名市大 芸術工學研究科 森教授デザイン!



◎リハ病院 ◎総合リハビリセンター企画調整室
◎大学病院化に向けた準備チーム